

# DataSpider Servista

## クラスタ構成ガイド

ドキュメント・リリース日: 2026年2月9日 (第1版)



© Saison Technology Co.,Ltd. 2026

# 目次

1. はじめに	1
1.1. 注意事項	1
1.1.1. お客様へのお願い	1
1.1.2. 商標について	1
1.2. 表記について	2
1.3. マークについて	3
2. クラスタ構成	4
2.1. リポジトリ DB 有り/共有ディスクインストール	4
2.1.1. システム構成	5
2.1.2. DataSpiderServer のインストール	5
2.1.3. 設定情報の同期	6
2.1.4. データの同期	7
2.1.5. モジュールの同期	7
2.1.6. ログ	7
2.1.7. 注意事項	7
2.2. リポジトリ DB 無し/共有ディスクインストール	8
2.2.1. システム構成	8
2.2.2. DataSpiderServer のインストール	9
2.2.3. 設定情報の同期	9
2.2.4. データの同期	10
2.2.5. モジュールの同期	10
2.2.6. ログ	10
2.2.7. 注意事項	10
2.3. リポジトリ DB 有り/ノード別インストール	11
2.3.1. システム構成	11
2.3.2. DataSpiderServer のインストール	11
2.3.3. 設定情報の同期	12
2.3.4. データの同期	13
2.3.5. モジュールの同期	13
2.3.6. ログ	13
2.3.7. 注意事項	14
2.4. リポジトリ DB 無し/ノード別インストール	15
2.4.1. システム構成	15
2.4.2. DataSpiderServer のインストール	15
2.4.3. 設定情報の同期	16
2.4.4. データの同期	17
2.4.5. モジュールの同期	17
2.4.6. ログ	17
2.4.7. 注意事項	17
3. DataSpiderServer のアクティブ状態の監視方法	18
3.1. DataSpiderServer プロセスの監視	18
3.1.1. DataSpiderServer プロセスの監視の注意事項	18
3.2. DataSpiderServer 稼働確認用スクリプト実行による監視	19

3.2.1. DataSpiderServer 稼働確認用スクリプト実行による監視の注意事項 .....	19
--	----

# 1. はじめに

本ドキュメントは、DataSpider Servista をクラスタ構成に設定する際に必要な以下の情報を記載しています。

- ・ クラスタ構成
- ・ ノード間の同期方法
- ・ アクティブ状態の監視方法

## 1.1. 注意事項

### 1.1.1. お客様へのお願い

- ・ 本ソフトウェアの著作権は株式会社セゾンテクノロジーまたはそのライセンサーが所有しています。
- ・ 本ソフトウェアおよび本ドキュメントを無断で複製、転載することを禁止します。
- ・ 本ドキュメントは万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- ・ 本ソフトウェアは使用者の責任でご使用ください。ご使用の結果、万一トラブルおよび訴訟などが発生し、または、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきまして、弊社は一切責任を負わないものとします。あらかじめご了承ください。
- ・ 本ソフトウェアの仕様や本ドキュメントに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本ソフトウェアの使用には、ソフトウェアライセンス契約が必要で、株式会社セゾンテクノロジーまたはそのライセンサーの重要な業務機密と独自の情報が含まれており、日本国政府の著作権法で保護されています。株式会社セゾンテクノロジーまたはそのライセンサーのソフトウェアと本ドキュメントの無断使用は、損害賠償、刑事訴訟の対象となります。

### 1.1.2. 商標について

- ・ DataSpider、DataSpider ロゴ、DataSpider Servista、その他の関連製品名、サービス名などは、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。
- ・ その他記載されている会社名・商品名・サービス名などは、各社の商標および登録商標です。
- ・ 個々のページに表示・記載されたこれら商標などの複製・転用を禁止致します。




## 1.2. 表記について

本ドキュメント内の表記は、次の規則に沿って行われています。

- DataSpider Servista の画面に表示されるメニュー名・タブ名・プロパティ項目名および値・ボタン名は [] で囲んで太字で表します。また、それ以外の機能名や画面のタイトル、名称のないものは「」で囲んで前者と区別しています。
- 「\$DATASPIDER\_HOME」は DataSpider Servista をインストールしたディレクトリを表します。  
デフォルトでは、Windows 版の場合は「C:\Program Files\DataSpiderServista」、UNIX/Linux 版の場合は「<ユーザのホームディレクトリ>/DataSpiderServista」となります。
- x86 版とは、32bit OS を表します。  
x64 版とは、64bit(Intel 64/AMD64) OS を表します。
- <と> で囲まれた名称は、可変であることを表します。  
例:\$DATASPIDER\_HOME/server/logs/<日付ディレクトリ>
- 本ドキュメント内に表記されているウェブサイトの URL は 2025年6月現在のものです。ウェブサイトの都合などにより、予告なしに URL が変更になる場合があります。
- 「Studio」とは「DataSpider Studio」を指します。
- DataSpiderServer についての記述は Windows 版・UNIX/Linux 版共通になっています。  
オペレーティングシステムに依存する内容 (パス区切り文字など) は適宜読み替えてご使用ください。
- 「DSS-」で始まる番号は、各問題の管理用の一意な ID となります。

## 1.3. マークについて

本ドキュメント内で使用しているマークについての説明は以下の通りです。

マーク	説明
	操作や設定に関するヒントであることを表します。
	操作や設定に関する注意事項や制限事項であることを表します。
	詳細な説明が別の項目に記載されていることを表します。

## 2. クラスタ構成

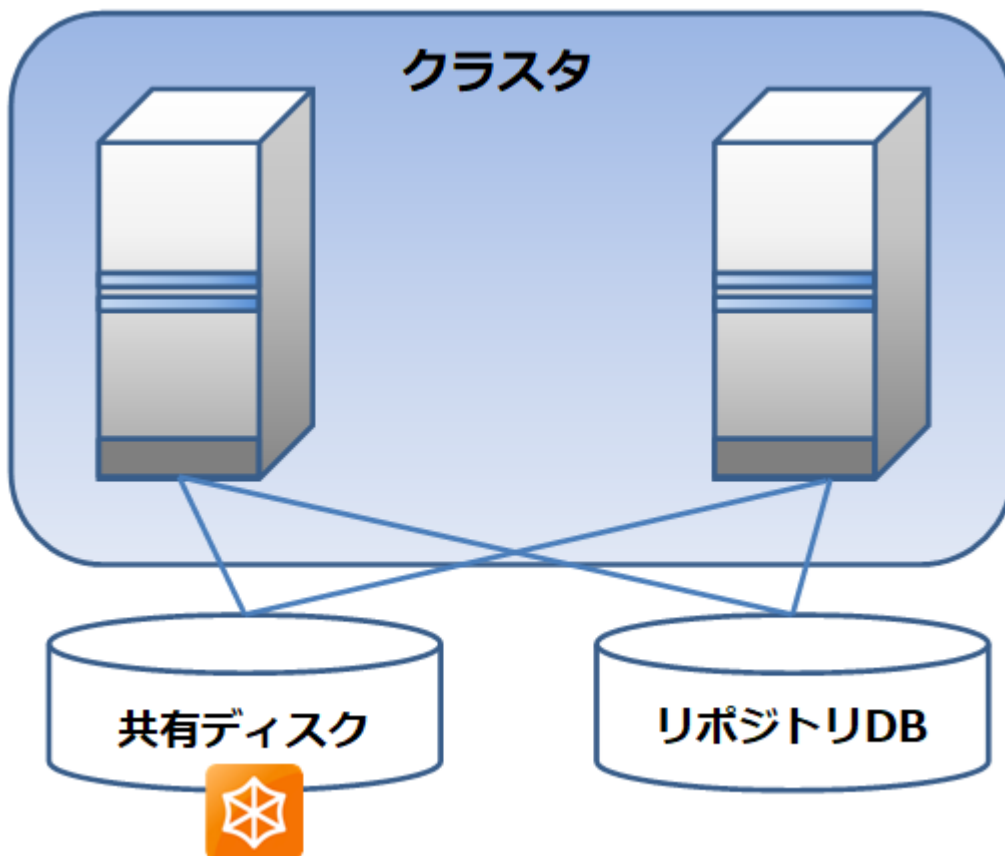
DataSpiderServer のクラスタ構成は、リポジトリ DB の有り・無し、共有ディスクへのインストールの有り・無しの組み合わせを選択することができます。

以下の4種類の構成がサポートされます。アクティブノードは本番系とも呼ばれ、パッシブノードは待機系とも呼ばれます。

- リポジトリ DB 有り/DataSpiderServer を共有ディスクにインストール
- リポジトリ DB 無し/DataSpiderServer を共有ディスクにインストール
- リポジトリ DB 有り/DataSpiderServer をアクティブノード・パッシブノード別々にインストール
- リポジトリ DB 無し/DataSpiderServer をアクティブノード・パッシブノード別々にインストール

### 2.1. リポジトリ DB 有り/共有ディスクインストール

リポジトリ DB 有りで DataSpiderServer を共有ディスクにインストールした場合の構成図は以下の通りです。



## 2.1.1. システム構成

アクティブノードとパッシブノードから一つのリポジトリ DB を参照します。DataSpiderServer は各ノードから参照できる共有ディスクにインストールします。

システム構成に関して、以下の注意事項があります。

- マウント機能を使用している場合には、マウント元ディレクトリのパスは各ノードに存在し、同一のドライブ、パスにする必要があります。
- マウント機能を使用して、各ノードで同じデータを参照する場合には、マウント元ディレクトリを各ノードから参照できる共有ディスクに配置する必要があります。

## 2.1.2. DataSpiderServer のインストール

DataSpiderServer は各ノードにインストールします。DataSpiderServer をインストールする際には、以下の注意事項があります。

- 各ノードともに DataSpiderServer を新規インストールします。  
実際にインストールする場所は同一となりますが、Windows サービスとして登録するため、各ノードで新規インストールします。
- DataSpiderServer をインストールするドライブ、パスは各ノードともに同一にします。  
DataSpider Servista 3.0以降では、既存の DataSpider Servista に対する上書きインストールができないため、どちらか一方のノードで別のディレクトリをマウントしてインストールしたあと、もう一方のノードと同一のディレクトリをマウントしなおしてください。
- Windows の場合、Windows サービスとして登録します。  
多くのクラスタソフトウェアでは、クラスタ対象のアプリケーションを Windows サービスとして登録しなければなりません。

## 2.1.3. 設定情報の同期

各ノードは同一の設定情報を参照するため、設定情報の同期は必要ありません。

- 同期の必要ない設定情報
  - \$DATASPIDER\_HOME/server/bin/DataSpiderServer.lax
  - \$DATASPIDER\_HOME/server/conf/dslog.properties
  - \$DATASPIDER\_HOME/server/conf/system.properties
  - ユーザアカウント設定
  - 休日設定
  - 各種トリガー設定
  - グローバルリソース設定
  - アプリケーションログ出力先設定
  - 環境変数設定
  - マウント設定
  - DataSpider ログ設定
  - マイログ検索条件

## 2.1.4. データの同期

マウント元ディレクトリ以外のデータは、各ノードは同一のデータを参照するため、データの同期は必要ありません。

- 手動で同期を行うデータ  
同期方法は、ファイルまたはディレクトリのコピーを行います。
  - ⚠ コピーを行う前にはバックアップを取ることをおすすめします。
    - マウント元のデータ
      - ⚠ マウント元ディレクトリが各ノードから参照できない場所にある場合
      - ⚠ 同期を必要とするデータが配置されている場合
- 同期の必要ないデータ
  - サービス
  - プロジェクト
  - 共有ディスク上のデータ

## 2.1.5. モジュールの同期

アダプタの追加やパッチの適用を行った場合は、各ノードは同一のモジュールを参照するため、同期の必要はありません。アダプタの追加方法やパッチの適用方法はモジュールに含まれている README を参照してください。

## 2.1.6. ログ

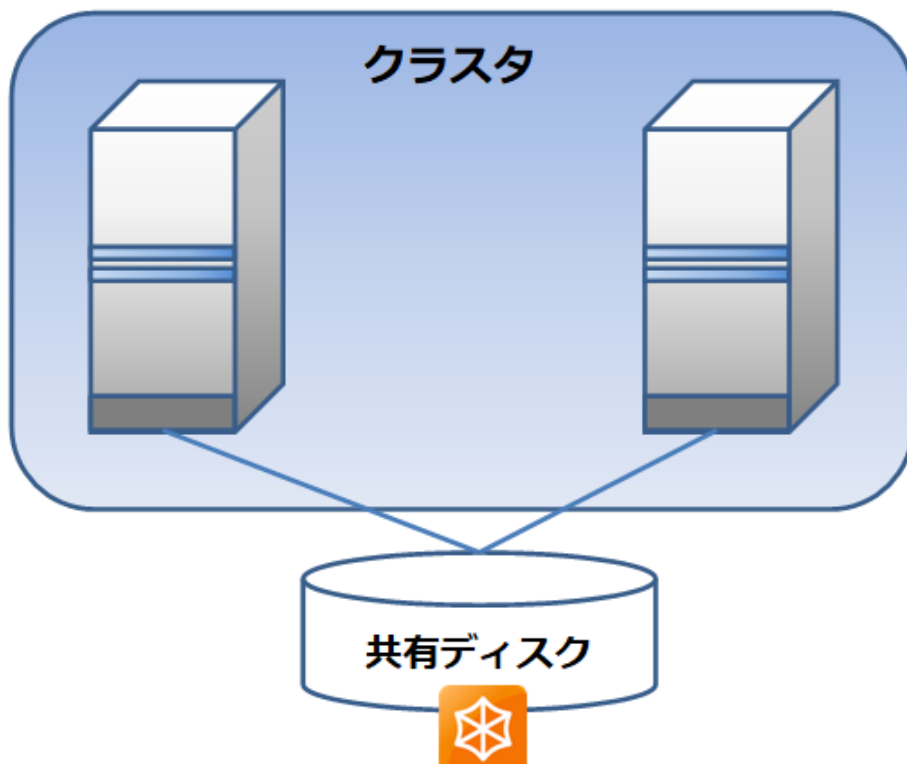
各ノードともに同一の場所にログを出力します。どのノードの DataSpiderServer が出力したログかを判別するためには、クラスタソフトのログと照らし合わせて判別します。

## 2.1.7. 注意事項

- DataSpiderServer のフェールオーバーを行う際には、アクティブ状態の DataSpiderServer を停止してからパッシブ状態の DataSpiderServer を起動してください。
  - アクティブ状態の DataSpiderServer が起動中、または停止処理中の場合、パッシブ状態の DataSpiderServer はログの出力ができないため、起動に失敗します。

## 2.2. リポジトリ DB 無し/共有ディスクインストール

リポジトリ DB 無しで DataSpiderServer を共有ディスクにインストールした場合の構成図は以下の通りです。



### 2.2.1. システム構成

アクティブノードとパッシブノードの各ノードから参照できる共有ディスクに DataSpiderServer をインストールします。DataSpiderServer はリポジトリ DB を使用しません。

システム構成に関して、以下の注意事項があります。

- マウント機能を使用している場合には、マウント元ディレクトリのパスは各ノードに存在し、同一のドライブ、パスにする必要があります。
- マウント機能を使用して、各ノードで同じデータを参照する場合には、マウント元ディレクトリを各ノードから参照できる共有ディスクに配置する必要があります。

## 2.2.2. DataSpiderServer のインストール

DataSpiderServer は各ノードにインストールします。DataSpiderServer をインストールする際には、以下の注意事項があります。

- 各ノードともに DataSpiderServer を新規インストールします。  
実際にインストールする場所は同一となりますが、Windows サービスとして登録するため、各ノードで新規インストールします。
- DataSpiderServer をインストールするドライブ、パスは各ノードともに同一にします。  
DataSpider Servista 3.0以降では、既存の DataSpider Servista に対する上書きインストールができないため、どちらか一方のノードで別のディレクトリをマウントしてインストールしたあと、もう一方のノードと同一のディレクトリをマウントしなおしてください。
- Windows の場合、Windows サービスとして登録します。  
多くのクラスタソフトウェアでは、クラスタ対象のアプリケーションを Windows サービスとして登録しなければなりません。

## 2.2.3. 設定情報の同期

各ノードは同一の設定情報を参照するため、設定情報の同期は必要ありません。

- 同期の必要ない設定情報
  - \$DATASPIDER\_HOME/server/bin/DataSpiderServer.lax
  - \$DATASPIDER\_HOME/server/conf/dslog.properties
  - \$DATASPIDER\_HOME/server/conf/system.properties
  - 休日設定
  - 各種トリガー設定
  - グローバルリソース設定
  - アプリケーションログ出力先設定
  - 環境変数設定
  - マウント設定
  - DataSpiderログ設定
  - マイログ検索条件

## 2.2.4. データの同期

マウント元ディレクトリ以外のデータは、各ノードは同一のデータを参照するため、データの同期は必要ありません。

- 手動で同期を行うデータ  
同期方法は、ファイルまたはディレクトリのコピーを行います。
  - ⚠️ コピーを行う前にはバックアップを取ることをおすすめします。
    - マウント元のデータ
      - ⚠️ マウント元ディレクトリが各ノードから参照できない場所にある場合
      - ⚠️ 同期を必要とするデータが配置されている場合
- 同期の必要ないデータ
  - サービス
  - プロジェクト
  - 共有ディスク上のデータ

## 2.2.5. モジュールの同期

アダプタの追加やパッチの適用を行った場合は、各ノードは同一のモジュールを参照するため、同期の必要はありません。アダプタの追加方法やパッチの適用方法はモジュールに含まれている README を参照してください。

## 2.2.6. ログ

各ノードともに同一の場所にログを出力します。どのノードの DataSpiderServer が出力したログかを判別するためには、クラスタソフトのログと照らし合わせて判別します。

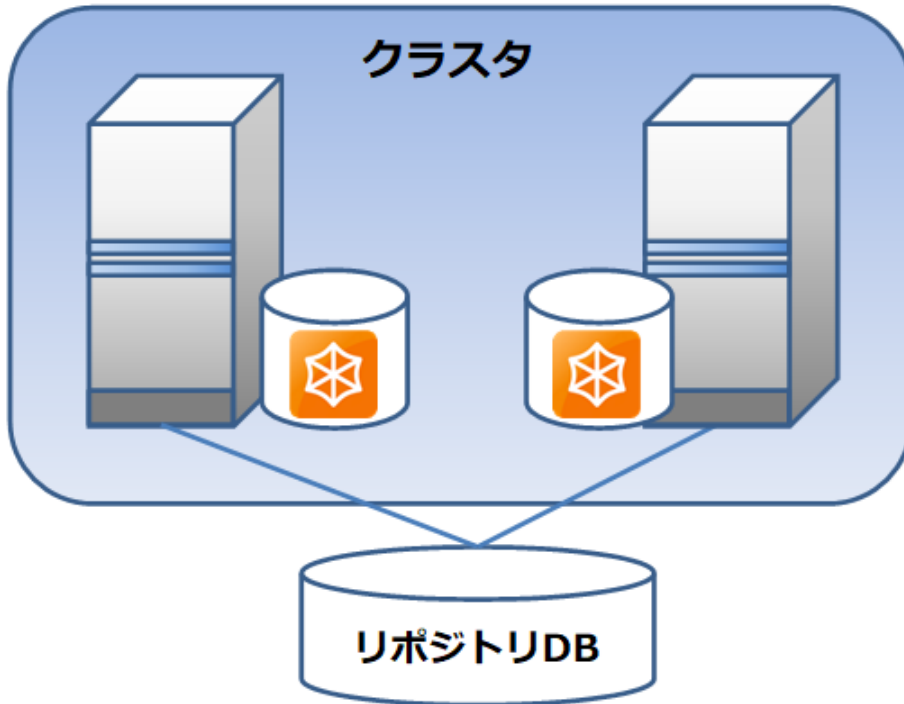
## 2.2.7. 注意事項

DataSpiderServer のフェールオーバーを行う際には、アクティブ状態の DataSpiderServer を停止してからパッシブ状態の DataSpiderServer を起動してください。

- アクティブ状態の DataSpiderServer が起動中、または停止処理中の場合、パッシブ状態の DataSpiderServer はログの出力ができないため、起動に失敗します。

## 2.3. リポジトリ DB 有り/ノード別インストール

リポジトリ DB 有りで DataSpiderServer を各ノードにインストールした場合の構成図は以下の通りです。



### 2.3.1. システム構成

アクティブノードとパッシブノードから一つのリポジトリ DB を参照します。DataSpiderServer は各ノードのローカルディスクにインストールします。

システム構成に関して、以下の注意事項があります。

- マウント機能を使用している場合には、マウント元ディレクトリのパスは各ノードに存在し、同一のドライブ、パスにする必要があります。
- マウント機能を使用して、各ノードで同じデータを参照する場合には、マウント元ディレクトリを各ノードから参照できる共有ディスクに配置する必要があります。

### 2.3.2. DataSpiderServer のインストール

DataSpiderServer は各ノードにインストールします。DataSpiderServer をインストールする際には、以下の注意事項があります。

- Windows の場合、Windows サービスとして登録します。  
多くのクラスタソフトウェアでは、クラスタ対象のアプリケーションを Windows サービスとして登録しなければなりません。
- DataSpiderServer をインストールするドライブ、パスは各ノードともに同一にします。

### 2.3.3. 設定情報の同期

各ノードで設定情報の同期を行う必要があります。リポジトリ DB に格納されている設定情報は各ノードで同じ情報を参照するため、同期の必要はありません。

- 手動で同期を行う設定情報

同期方法は、変更を行った内容を各ノードの対象ファイルに記載する、またはファイルのコピーを行います。



変更やコピーを行う前にはバックアップを取ることをおすすめします。

- `$DATASPIDER_HOME/server/bin/DataSpiderServer.lax`  
ヒープサイズの変更を行った場合には、各ノードのヒープサイズの値を同一の値にしておくことをおすすめします。
- `$DATASPIDER_HOME/server/conf/dslog.properties`  
ログに関する設定(ログレベル、ロールアップするファイルサイズ、バックアップ数など)の変更を行った場合には、各ノードのログに関する設定を同一の値にしておくことをおすすめします。
- `$DATASPIDER_HOME/server/conf/system.properties`  
システムプロパティの変更を行った場合には、各ノードのシステムプロパティを同一にしておくことをおすすめします。

- クライアントツールで同期を行う設定情報

以下の設定情報は DataSpider Studio のコントロールパネルの[DataSpiderServerの設定]-[ログ設定]で各ノードを同一の設定にします。


- DataSpider ログ設定
- 同期の必要がない設定情報
    - ユーザアカウント設定
    - 休日設定
    - 各種トリガー設定
    - グローバルリソース設定
    - アプリケーションログ出力先設定
    - 環境変数設定
    - マウント設定
    - マイログ検索条件

## 2.3.4. データの同期


各ノードでデータの同期を行う必要があります。リポジトリ DB に格納されているデータは各ノードで同じデータを参照するため、同期の必要はありません。


- 手動で同期を行うデータ

同期方法は、ファイルまたはディレクトリのコピーを行います。


 コピーを行う前にはバックアップを取ることをおすすめします。

- マウント元のデータ

-  マウント元ディレクトリが各ノードから参照できない場所にある場合

-  同期を必要とするデータが配置されている場合

- /data ・ /home ・ /system および /tmp ディレクトリ以下のデータ

-  同期を必要とするデータが配置されている場合

- 同期の必要がないデータ

- サービス

- プロジェクト

- リポジトリ DB に格納されているデータ

## 2.3.5. モジュールの同期

アダプタの追加やパッチの適用を行った場合には、追加されたモジュールを個別に各ノードにインストールし、同期を行う必要があります。アダプタの追加方法やパッチの適用方法はモジュールに含まれている README を参照してください。

## 2.3.6. ログ

各ノードで異なる場所にログを出力します。

パシブ状態の DataSpiderServer のログを参照する際には DataSpider Studio のマイログから参照することができません。テキストエディタなどで開き、参照してください。

## 2.3.7. 注意事項

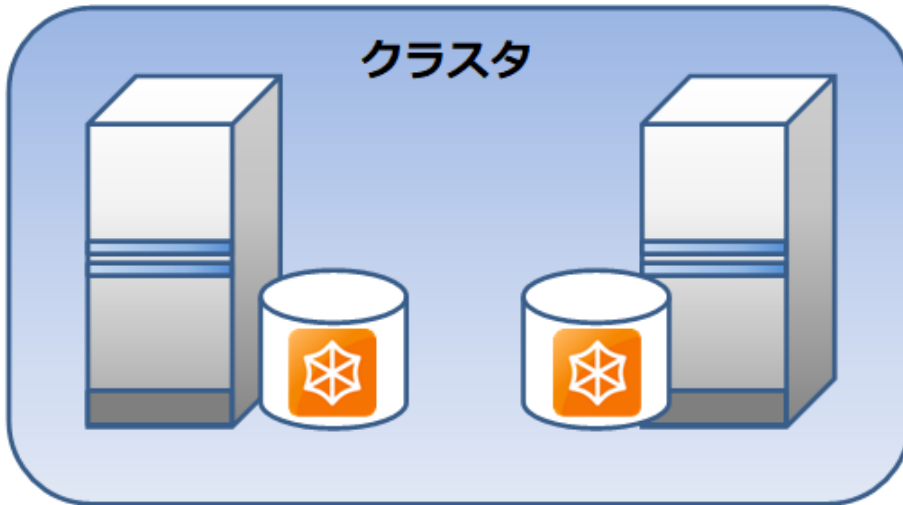
ホットスタンバイ構成の場合には、両ノードの DataSpiderServer が同じトリガー設定を参照するため、以下のトリガーが使用できません。

- スケジュールトリガー
- DB トリガー
- SAP トリガー

また、ファイルトリガーは[監視ファイル]に両ノードが共有しているディスクのファイルを指定することはできません。

## 2.4. リポジトリ DB 無し/ノード別インストール

リポジトリ DB 無しで DataSpiderServer を各ノードにインストールした場合の構成図は以下の通りです。



### 2.4.1. システム構成

アクティブノードとパッシブノードのローカルディスクに DataSpiderServer をインストールします。DataSpiderServer はリポジトリ DB を使用しません。

システム構成に関して、以下の注意事項があります。

- マウント機能を使用している場合には、マウント元ディレクトリのパスは各ノードに存在し、同一のドライブ、パスにする必要があります。
- マウント機能を使用して、各ノードで同じデータを参照する場合には、マウント元ディレクトリを各ノードから参照できる共有ディスクに配置する必要があります。

### 2.4.2. DataSpiderServer のインストール

DataSpiderServer は各ノードにインストールします。DataSpiderServer をインストールする際には、以下の注意事項があります。

- Windows の場合、Windows サービスとして登録します。  
多くのクラスタソフトウェアでは、クラスタ対象のアプリケーションを Windows サービスとして登録しなければなりません。
- DataSpiderServer をインストールするドライブ、パスは各ノードともに同一にします。

## 2.4.3. 設定情報の同期

各ノードで設定情報の同期を行う必要があります。

- 手動で同期を行う設定情報

同期方法は、変更を行った内容を各ノードの対象ファイルに記載する、またはファイルのコピーを行います。



変更やコピーを行う前にはバックアップを取ることをおすすめします。

- \$DATASPIDER\_HOME/server/bin/DataSpiderServer.lax  
ヒープサイズの変更を行った場合には、各ノードのヒープサイズの値を同一の値にしておくことをおすすめします。
- \$DATASPIDER\_HOME/server/conf/dslog.properties  
ログに関する設定(ログレベル、ロールアップするファイルサイズ、バックアップ数など)の変更を行った場合には、各ノードのログに関する設定を同一の値にしておくことをおすすめします。
- \$DATASPIDER\_HOME/server/conf/system.properties  
システムプロパティの変更を行った場合には、各ノードのシステムプロパティを同一にしておくことをおすすめします。

- クライアントツールで同期を行う設定情報

以下の設定情報はサーバ移行で同期を行います。設定の変更を行った場合には、サーバ移行で対象の設定情報をエクスポートし、設定を反映したいノードで、エクスポートした設定情報をインポートします。

サーバ移行は DataSpider Studio のコントロールパネルの[DataSpiderServerの設定]-[サーバ移行]またはCLI Console の exp/imp コマンドで行います。

- 休日設定
- 各種トリガー設定
- グローバルリソース設定
- アプリケーションログ出力先設定
- 環境変数設定

以下の設定情報は DataSpider Studio のコントロールパネルの[マウント設定]または CLI Console の mount コマンドで各ノードを同一の設定にします。

- マウント設定

以下の設定情報は DataSpider Studio のコントロールパネルの[DataSpiderServerの設定]-[ログ設定]で各ノードを同一の設定にします。

- DataSpiderログ設定

以下設定情報は DataSpider Studio のマイログで各ノードを同一の条件を作成します。


- マイログ検索条件

## 2.4.4. データの同期


各ノードでデータの同期を行う必要があります。


- 手動で同期を行うデータ

同期方法は、ファイルまたはディレクトリのコピーを行います。


 コピーを行う前にはバックアップを取ることをおすすめします。

- マウント元のデータ

 マウント元ディレクトリが各ノードから参照できない場所にある場合

 同期を必要とするデータが配置されている場合

- /data ・ /home ・ /system および /tmp ディレクトリ以下のデータ

 同期を必要とするデータが配置されている場合

- クライアントツールで同期を行うデータ

以下のデータはサーバ移行で同期を行います。データの変更を行った場合には、サーバ移行で対象のデータをエクスポートし、データを反映したいノードで、エクスポートしたデータをインポートします。

サーバ移行は DataSpider Studio のコントロールパネルの[DataSpiderServerの設定]-[サーバ移行]またはCLI Console の exp/imp コマンドで行います。

- サービス

- プロジェクト

## 2.4.5. モジュールの同期

アダプタの追加やパッチの適用を行った場合には、追加されたモジュールを個別に各ノードにインストールし、同期を行う必要があります。

アダプタの追加方法やパッチの適用方法はモジュールに含まれている README を参照してください。

## 2.4.6. ログ

各ノードで異なる場所にログを出力します。

パッシブ状態の DataSpiderServer のログを参照する際には DataSpider Studio のマイログから参照することができません。テキストエディタなどで開き、参照してください。

## 2.4.7. 注意事項

ホットスタンバイ構成の場合には、両ノードのトリガーが発火するのを避けるため、パッシブノードの DataSpiderServer の各種トリガーをすべて「無効」状態にしてください。

## 3. DataSpiderServer のアクティブ状態の監視方法

DataSpiderServer のアクティブ状態(死活状態)を監視するには以下の方法があります。

- DataSpiderServer プロセスの監視
- DataSpiderServer 稼働確認用スクリプトの実行による監視

### 3.1. DataSpiderServer プロセスの監視

この方法は DataSpiderServer のプロセスが起動しているかどうかで DataSpiderServer のアクティブ状態を監視します。

DataSpiderServer のプロセス名は以下の通りです。

- Windows の場合: DataSpiderServer.exe
- UNIX/Linux の場合: DataSpiderServer

プロセス名の取得方法については各クラスタソフトウェアのマニュアルを参照してください。

#### 3.1.1. DataSpiderServer プロセスの監視の注意事項

DataSpiderServer プロセスを監視する場合、DataSpiderServer のサービス停止状態(ハングアップ状態など)の検知を行うことができません。DataSpiderServer のサービス停止状態を検知するためには DataSpiderServer 稼働確認用スクリプト実行による監視を行ってください。

## 3.2. DataSpiderServer 稼働確認用スクリプト実行による監視

この方法は ScriptRunner から実際にスクリプトを実行し、DataSpiderServer のアクティブ状態を監視します。DataSpiderServer プロセスの監視と比較して、より正確にアクティブ状態の監視を行うことができます。以下の状態を監視することができます。

- DataSpiderServer プロセスが起動しているかどうか
- クライアントツールが DataSpiderServer に接続する際に使用するポートが利用可能かどうか
- DataSpiderServer でスクリプトが実行できる状態になっているかどうか

クラスタソフトウェアでは ScriptRunner の戻り値が「0」(正常終了)であるかどうかで DataSpiderServer のアクティブ状態を監視します。

### 3.2.1. DataSpiderServer 稼働確認用スクリプト実行による監視の注意事項

DataSpiderServer 稼働確認用スクリプト実行による監視をする場合、DataSpiderServer 稼働確認用スクリプトの実行もほかのスクリプトと同じレベルで実行されます。つまりスクリプトの実行要求が多く発行され、スクリプトの実行が待たされているときには、DataSpiderServer 稼働用スクリプトの実行も同じように待たされます。

**DataSpider Servista**  
**クラスタ構成ガイド**

第 1 版 2026.2.9  
株式会社セゾンテクノロジー